

令和2年度「学術変革領域研究（A）」新規採択研究領域  
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	20A103	領域略称名	中国文明起源
研究領域名	中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ		
領域代表者名 (所属等)	中村 慎一 (金沢大学・歴史言語文化学系・教授)		

(応募領域の研究概要)

中国文明起源解明のための考古学の新規戦略（＝イニシアティブ）を提示し、その実践を通じて、中国考古学の長年の懸案と新たな課題を一挙に解決しようとする試みである。具体的には、目に見えるモノから歴史を再構する考古学と、そのモノから目に見えない情報を引き出す考古科学とが対等な立場で協働し、文明形成期の中国における各種威信材の産地及び流通ルートの復元とヒトの移動復元を併せ行う。対象とする威信材は玉器、トルコ石、タカラガイ、ワニ革太鼓、象牙、漆器、特殊土器、水銀朱などである。ヒトの移動については、殉死人骨や供儀人骨など、尋常でない最期を遂げた人骨を主に扱い、その来歴を探る。また、中国文明形成期における西方（メソポタミア文明、インダス文明）からのインパクトとその伝播ルートとしてのプロト・シルクロードについて多方面から検討を加え、その実態を解明する。

(審査結果の所見)

本研究領域は、人類史の中でも注目度の高い中国文明の形成過程について、考古学を軸に自然科学等の手法を駆使し、これまでとは異なる次元の研究精度でその解明に挑もうとする意欲的な提案であり、また、綿密な事前準備と充実した体制作りがなされてきたことが伺える優れた研究計画である。これまでの実績に基づく中国の研究機関との協力関係の構築は特に優れている。

研究目的に沿って適切な研究計画が立てられており、考古学を軸として各種分析を組み合わせた各計画研究は優れた国内の研究者を選定し、その組織も充実しており、目的を達成する手段としても十分な準備がなされている。

国際的に活躍する若手研究者育成を目的としたプログラムの設定も有益であり、国際的な情報発信、研究成果発表を積極的に行うことを表明している姿勢も評価できる。

なお、研究の実施に当たっては、学術変革領域研究としての革新性に留意し、中国文明の起源の解明を軸としつつも既存研究の枠組みにとどまらず、研究プロジェクトを総括して新興複合領域の創生、人類史における文明形成論に発展させる展望を示すことが求められるだろう。